

## 第2章 年間指導計画の作成 【解説P55～59】

### 第1節 年間指導計画の基本的な考え方

#### 1. 年間指導計画とその構成要素

年間指導計画は、学年や学級において、その年度の総合的な学習の時間の学習活動の見直しをもつために1年間の流れの中に単元を位置付けて示すものである。どの時期に、どれくらいの時間をかけて、どのように学習活動を展開するのか、またその活動を通して、どの程度まで生徒の学びを高めたのかということについて、1年間にわたる具体的な生徒の学習の様子を思い描きながら構想を立てるようにしたい。

年間指導計画の様式は特に固定的な様式はないが、総合的な学習の時間が一層豊かなものになるように、各学校が実施する教育活動の特質に応じて必要な要素を盛り込み、活用しやすい様式に工夫して表すことが大切である。その際、各学校が作成する全体計画に示された目標及び内容、資質・能力・態度との関連性に十分配慮することが重要である。

年間指導計画には様々な様式があるが、そこに含まれる基本的な構成要素としては、単元名、各単元における主な学習活動、活動時期、予定される時数と単位数などがある。これらの要素に加えて、単元のねらい、生徒の意識、各教科・科目等との関連、外部講師や異校種との関連などを記す場合もある。

総合的な学習の時間「地域」(1単位)		
4月	<b>オリエンテーション(4時間)</b>	単位数
5月	・中学校の総合的な学習の時間で行った内容を各自が発表し、情報交換をする	
6月	・全体で本年度の総合的な学習の時間の見直しを立てる	
7月	<b>地域の課題発見(20時間)</b>	単元名
8月	・地域について調べ、地域の課題を知る	
9月	・グループでテーマを定める	
10月	・地域の実態調査を行う	
11月	・課題を設定し、探究活動を行う	
12月	・地域理解のため、10分野の外部有識者による講演会と体験活動を行う	
1月	・グループでテーマを定めて探究活動をする	主な学習活動
2月	・探究のまとめを行う	
3月	・探究の成果をレポートにまとめ、駅前商店街で学年発表会を行い、その成果を関係機関に送り意見を頂く	予定される時数
4月	<b>地域で活動する(11時間)</b>	
5月	・地域の課題を解決する方策を考える	
6月	・地域でできる活動を考え、グループ単位で活動する	活動時期
7月	・地域で実際に活動を行っているグループと協力し、地域の方の思いに触れる	
8月	・公開発表会を開き活動の成果を他学年や保護者、関係機関に伝える	

図1：年間指導計画の構成要素

## 2. 年間指導計画における時数配当の考え方

総合的な学習の時間の授業時数は、学習指導要領第1章総則第4款の7に示されたとおり1単位時間を50分とし、35単位時間の授業を1単位として卒業までに3～6単位に見合う標準授業時数105～210単位時間数を確保し、計画する必要がある。この時数を確保した上で、各単元の実施に必要なと見込まれる授業時数を配当することになる。

その際、授業時数の配当は、卒業までを見通しながら、卒業までの各年次のすべてで実施するものや、特定の年次で集中して実施するものなど、学校や生徒の実態に応じて配当することになる。また、特定の学期又は期間に行う方法を組み合わせて活用することも可能である。いずれの場合にも、当該年次の教育課程全体を視野に入れつつ、予定される学習活動を実施するために必要な時数を配当するとともに年間授業時数が確保されるよう明示することが必要である。そして、授業時数の確保が行われているかどうかを、学期単位、単元単位で確認することが一層重要になる。

## 3. 年間指導計画における単元配列の考え方

年間指導計画において単元を配列する際には、年間1単元、年間複数の単元に分けて年間指導計画を立てる等いくつかのパターンがある。配列する際の工夫としては、例えば、前ページの図1のように複数の単元の間は何らかのまとまりや主題性をもつようにすることが挙げられる。それは、単元と単元が活動や生徒の意識の流れにおいて一定の連続性を持ち、場合によっては連なって展開されることで、活動の見通しをしっかりとらえて、探究に取り組むことができる等、学びを深め、生徒の学習意欲を高める効果が期待できるからである。

これらの他にも様々なパターンがあり、それぞれに特徴が認められる。充実した総合的な学習の時間を計画するために工夫を凝らしながら作成することが望まれる。

【1年間を1単元にした年間指導計画の事例】

図2は、「生命」という年間を通したテーマで、1年間継続して実施する第1学年の年間指導計画である。

1年生		水曜日の4校時		単元名「生命」		(1単位)		
回	月/日	期	学習活動	形態	時	備	考	
1	4月	前期	オリエンテーション	学年	1	総合的な学習の時間の意義・内容の説明、担当職員紹介		
2	4月		〃	〃	1	個別課題設定の説明・分野説明（学年発表会VTR）		
3	4月		設定I	共通学習①（講演）	〃	1	個別課題設定に向けて「生命」についての講演会	
4	5月			共通学習②（VTR）	〃	1	教科「理科」「保健体育」「家庭」などで学んだ「生命の誕生」をとおして考える	
5	5月		予備学習	H R	1	授業の流れ、各自の目標を記入し、研究レポート集を読む		
6	5月		設定II	個別課題設定①	〃	1	HR単位（2パート展開 or TT で実施）	
7	6月			〃 ②	〃	1	研究レポート集や新聞を読み、まとめる	
8	6月			〃 ③	〃	1	興味関心マップを作る/校舎外の自然で生命を感じる	
9	6月			〃 ④	〃	1	分野ごとの個別課題を考える	
10	6月			〃 ⑤	〃	1	パソコン室や図書室での調査	
11	7月			〃 ⑥	〃	1	自分にあった分野と個別課題を見つける	
12	7月		期	共通学習③	学年	2	教科「情報」で学んだ著作権についての知識を活用しての書くマナー	
13	7月			個別課題設定⑥	H R	1	個別課題設定完了・提出（分野の決定）	
夏季休業		発表I	情報収集・研究 1次レポート作成	個人		設定した個別課題についての情報収集・研究成果をまとめてレポート作成 (夏季休業中の宿題)		
14	8月		レポート提出・発表①	H R	1	1次レポートの提出確認、発表練習、発表		
15	9月		レポート発表②	〃	1	レポート発表は全員が行う		
16	9月		レポート発表③	〃	1	評価の視点をもとに、持ち時間に合わせてまとめ直す		
17	9月	レポート発表④	〃	1	大きな声で堂々とした発表態度で行う			
18	10月	後期	オリエンテーション	学年	1	後期の個別課題研究の説明→分野ごと（各教室） 分野別の顔合わせ、自己紹介など		
19	10月		研究II	個別課題研究①	分野	1	分野ごとに研究	
20	10月			〃 ②	〃	1	分野の共通学習（外部講師の講話や体験学習）	
21	10月			〃 ③	〃	1	方法論学習（研究・レポート作成・発表の方法）	
22	11月			〃 ④	〃	1	情報収集（インターネット・文献）調査	
23	11月			〃 ⑤	〃	1	個別指導などで、個別課題を深める	
24	11月			〃 ⑥	〃	1	レポートの構想を練る（レポートの書き方は分野で説明）	
25	11月			〃 ⑦	〃	1	レポート作成	
26	12月		レポート完成・提出	〃	1			
27	12月		発表II	分野発表会①	〃	1	発表時間に合わせた練習	
28	12月	分野発表会②		〃	1	分野の生徒全員が発表（相互評価実施）		
29	1月	分野発表会③		〃	1	分野代表1名を選出		
30	1月	共通学習④（講演）		学年	1	教科「国語」で学んだ「わかりやすい発表」についての講演会		
31	2月	学年発表会 ①		学年	2	各代表による発表会（視聴覚教室でプレゼンテーション		
32	2月	〃 ②		〃	1	ソフトを使った発表をする）		
33	3月	まとめ		分野	1	1年間のまとめ、アンケート実施		
授 業 時 数					35			

図2：1年間を1単元にした例

## 【1年間で複数単元に分けた年間指導計画の事例】

図3は、前期と後期に分け、期ごとに異なるテーマの単元を実施する第1学年の年間指導計画であり、単元名、単元目標、主な学習活動、活動時期、予定時数が記載されている。前期は探究活動の基礎を学び、後期はコミュニケーション能力を育てることを目標としている。

月	「探究基礎」1単位			
4	第1単元「TRY」(19時間)			
	単元の目標 生徒の身近なものを対象にして、課題発見・情報収集・自己表現のための基本的な技能を学ぶ。ポスターの作成を通して、習得した技法を活用しながら思考を深め、より良い課題の解決や表現方法について話し合うことで、創造的、協同的な態度を育成する。			
5	主な学習活動と指導上の留意点			
	課題設定 (2時間)	身近なものを題材にクラスごとのテーマ、グループテーマを設定し、ブレインストーミング、ウェビング、KJ法的手法などを効果的に利用しながら、グループ内で発想を広げ、個人テーマの設定を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校までの学習経験を考慮し、今後の学習に必要な知識・技能を習得できるよう十分に配慮する。</li> <li>・「個人シート作成・発表」から「探究学習発表会」における学習活動は、教科「情報」に関する学習と関連させる。</li> <li>・「情報の収集」、「まとめ・表現」の場面では、パソコン教室を積極的に活用する。</li> </ul>	
6	個人シート作成・発表 (4時間)	個人テーマについて、インターネットを活用して情報を収集し、ワープロソフトを使って個人シートにまとめる。		
	ポスター作成 (5時間)	班員の作成した個人シートを持ち寄り、グループテーマとして1つにまとめたポスターを作成する。		
7	発表準備・中間発表 (5時間)	作成したポスターを使って、発表する際の工夫について班員とアイデアを出し合う。必要なものを作成しながら、発表のリハーサルを行う。		
	探究学習発表会 (2時間)	ポスターの発表会を全グループが行い、生徒同士が互いにポスターおよび発表に関して相互に評価し合う。		
8	単元のまとめ (1時間)	この単元で学習したことを振り返り、学習した感想や取組の反省、自己の半価などをまとめる。		
	第1単元「FRY」(16時間)			
10	単元の目標 社会的で注目されている課題を対象にして、ディベートの試合にいたるまでの様々な活動を通して、多面的・多角的な思考力、情報収集・情報整理能力を育成する。また、チームで課題を共有し、協力し合う経験を通して、コミュニケーション能力を育成し、協同的な態度を育成する。			
	主な学習活動と指導上の留意点			
11	ディベートとは何か (2時間)	ディベートとは何かをインターネット等を利用して個人で調べ、ワークシートにまとめて発表する。また、ディベートの基礎事項について確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1単元で学習した知識・技能を、グループでの議論等で積極的に活用できるよう十分に配慮する。</li> <li>・すべての生徒が、様々な場面で発表する機会を設定する。</li> <li>・情報収集に関する学習活動は、教科「情報」に関する学習と関連させる。</li> </ul>	
	12	シナリオディベート (2時間)		ディベートのルールを確認した後、シナリオを利用して、ディベートの流れ、フローシートの書き方を体験する。
ミニディベート (3時間)		身近な論題で、反論を1回省略したミニディベートを実施する。必要となる情報の収集から試合までの流れをすべて体験することで、本ディベートにつなげる。		
1	本ディベート準備 (4時間)	社会で注目されている課題を論題として、ディベートを実施する。ミニディベートでの経験をもとに、本ディベートに向けた準備を行う。		
	本ディベート (2時間)	クラス内で、ディベートを実施する。試合、審判の両方をすべての生徒が行う。この結果をもとに、探究学習発表会でのクラス代表を選出する。		
2	探究学習発表会 (2時間)	クラス代表となったグループ対抗の決勝戦を実施する。試合をしない生徒は、審判として試合に参加する。		
	単元のまとめ (1時間)	この単元で学習したことを振り返り、学習した感想や取組の反省、自己の変化などをまとめる。		
3	第1単元「FRY」(16時間)			
	単元の目標 社会的で注目されている課題を対象にして、ディベートの試合にいたるまでの様々な活動を通して、多面的・多角的な思考力、情報収集・情報整理能力を育成する。また、チームで課題を共有し、協力し合う経験を通して、コミュニケーション能力を育成し、協同的な態度を育成する。			
11	主な学習活動と指導上の留意点			
	ディベートとは何か (2時間)	ディベートとは何かをインターネット等を利用して個人で調べ、ワークシートにまとめて発表する。また、ディベートの基礎事項について確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1単元で学習した知識・技能を、グループでの議論等で積極的に活用できるよう十分に配慮する。</li> <li>・すべての生徒が、様々な場面で発表する機会を設定する。</li> <li>・情報収集に関する学習活動は、教科「情報」に関する学習と関連させる。</li> </ul>	
12	シナリオディベート (2時間)	ディベートのルールを確認した後、シナリオを利用して、ディベートの流れ、フローシートの書き方を体験する。		
	ミニディベート (3時間)	身近な論題で、反論を1回省略したミニディベートを実施する。必要となる情報の収集から試合までの流れをすべて体験することで、本ディベートにつなげる。		
1	本ディベート準備 (4時間)	社会で注目されている課題を論題として、ディベートを実施する。ミニディベートでの経験をもとに、本ディベートに向けた準備を行う。		
	本ディベート (2時間)	クラス内で、ディベートを実施する。試合、審判の両方をすべての生徒が行う。この結果をもとに、探究学習発表会でのクラス代表を選出する。		
2	探究学習発表会 (2時間)	クラス代表となったグループ対抗の決勝戦を実施する。試合をしない生徒は、審判として試合に参加する。		
	単元のまとめ (1時間)	この単元で学習したことを振り返り、学習した感想や取組の反省、自己の変化などをまとめる。		
3	第1単元「FRY」(16時間)			
	単元の目標 社会的で注目されている課題を対象にして、ディベートの試合にいたるまでの様々な活動を通して、多面的・多角的な思考力、情報収集・情報整理能力を育成する。また、チームで課題を共有し、協力し合う経験を通して、コミュニケーション能力を育成し、協同的な態度を育成する。			

図3：1年間で複数単元に分けた例

## 第2節 年間指導計画作成上の留意点と具体例

年間指導計画においては、時間軸に沿って単元を配列し、学習活動の1年間の概要を明示することがポイントとなる。その際、学習活動に関する細かな計画は単元計画で記載するため、年間指導計画では、単元の実施期間を概略的に示したり、主な学習活動をいくつかに絞って箇条書きにして示したりするなど、簡潔な記述となるように工夫したい。

次に示す7つの留意点は、『高等学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』に示された年間指導計画作成上の留意点であり、これらの点を配慮しつつ、年間の学習活動のイメージを作ることのできる簡潔な年間指導計画を作成したい。

### (1) 生徒の実態や特性に配慮すること

目の前の生徒の実態、課程や学科、進路の希望など生徒の特性に応じた計画となるよう創意工夫を生かす必要がある。例えば、第1学年の場合には、中学校での経験や成果等を、第2学年や第3学年の場合には、前年度の学習経験や成果等を把握しておくことが大切である。

しかし、高等学校では一般に複数の中学校から生徒を受け入れるため、小・中学校との学習の連続性をもたせることは困難な場合が多い。そこで、年間指導計画の作成に当たっては、中学校までの学習経験の有無は十分に把握しつつも、あくまでも学校の特色や生徒の特性等を十分に踏まえて作成することが重要である。

### (2) 十分な見通しを持った周到な計画にすること

年間指導計画は、卒業までを見通して、単位の履修と修得ができるよう、綿密な計画を立てる必要がある。特に、単位の認定の時期と履修を認定する要件も計画を立てる段階で明確にしておく必要がある。また、年間指導計画は、毎年度末に見直しを行い、実際の単元の目標、学習活動、評価等が生徒の実態に合ったものであったか、学校や地域の特色を十分に生かしたものであったか、実施時期や時数の配分は適当であったかなどについて十分に検証し、見直しをしなければならない。

#### 【学年間の関連を明らかにした事例】

図4は、当該年度の第1学年から第3学年までの各学年の年間指導計画を1枚の表に書き込んで示すことで、学年間の関連を明らかにしたものである。このような資料により、その年度および3年間を見通した全校生徒が行っている総合的な学習の時間の取組を俯瞰することができる。

さらに、学年等を越えて相互に協力したり、報告を聞き合ったりする等、有効な活用方法が考えられる。

## 第一高等学校 「S タイム」

実施	時間	1年	2年	3年
4月 ～ 9月	19 h	<b>地域研究</b>	<b>企業研究</b>	<b>商品開発</b>
		<p>〈目標〉生活している地域に関心を持ち、郷土のために主体的に関わることができる。</p> <p>〈主な学習活動〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域探検</li> <li>・調査と情報収集</li> <li>・地域の再発見</li> <li>・グループワークで情報交換</li> <li>・課題の設定</li> <li>・探究活動の仕方の習得</li> <li>・班で個人発表</li> <li>・班ごとにクラス発表</li> </ul>	<p>〈目標〉コミュニケーション能力、情報活用能力、表現力を育て、協同的に探究活動に取り組むことができる。</p> <p>〈主な学習活動〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元の企業にアポイント</li> <li>・取材をして企業を理解</li> <li>・店頭で、商品の情報を収集、吟味</li> <li>・個人で企業のパンフレット作成</li> <li>・グループでパンフレット作成</li> <li>・中間プレゼンテーション</li> </ul>	<p>〈目標〉チャレンジ精神、創造性、コミュニケーション能力、問題解決能力を育て、地域に貢献できる。</p> <p>〈主な学習活動〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携企業の概要理解</li> <li>・商品調査</li> <li>・市場調査</li> <li>・商品のコンセプトを決定</li> <li>・商品開発の企画書作成</li> <li>・連携企業にアドバイスをいただき修正</li> <li>・試作品を製作</li> <li>・クラス発表</li> </ul>
11月	3 h	<b>中間発表</b> （上級生から下級生へのアドバイス）		
12月 ～ 1月	8 h	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上級生からのアドバイスを生かす</li> <li>・発表の仕方を学ぶ</li> <li>・パソコンとプロジェクターを利用した発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業からアドバイスをいただき再検討</li> <li>・企業のパンフレットの修正</li> <li>・企業パンフレット完成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市場調査から課題を明確化し再検討</li> <li>・商品名、パッケージ等を考案</li> <li>・商品化</li> <li>・店頭で販売実践</li> <li>・商品リサーチ</li> </ul>
2月	4 h	<b>公開発表会</b> （文化ホールで、保護者、地域の方、中学生を招く）		
3月	1 h	・まとめと振り返り	・まとめと振り返り	・まとめと振り返り

図4：当該年度の学年間の関連を示した例

### 【3年間の関連を明らかにした事例】

図5は、入学年度から卒業年度までの各学年の年間指導計画を1枚の表に書き込んで示すことで、1人の生徒が3年間をとおしてどのような学習活動をするかを明らかにしたものである。このような資料により、1人の生徒が3年間どのように学ぶかを見通した総合的な学習の時間の取組を俯瞰することができる。

さらに、探究活動が何度も連続して行われ、単元の学習活動が発展的に高められていくことや、教師の指導法の深化が明らかになる等、有効な活用方法が考えられる。

年度	時期	時間数	単元名 (内容)	学習方法		
				課題解決能力	他者と社会との 関わり	自己理解
25年度	1年 1～2学期	16時間	過去とつなぐ (自分を知らう・ 自分史を書く)	・課題発見のシミュレーション ・インターネット活用 ・レポート作成 ・文献活用	・学びのモチベーションアップ	・興味関心の広がり ・協力、協同と仲間づくり
	1年 2～3学期	19時間	地域とつなぐ (職業を知らう・ 未来設計を書く)	・課題発見 ・課題設定 ・課題探究・課題解決 ・フィールドワーク ・発信・表現方法	・教科への興味・関心と学びの意欲を高める ・協同的な取組	・適性の発見 ・視野の広がり ・集団の中で個人が果たす役割に気付く
26年度	2年 1～2学期	20時間	地域と日本をつなぐ(修学旅行を活用して現地調査・地域の活動に参加)	・計画を立てる ・課題発見・設定 ・課題探究・課題解決 ・文献の利用 ・インターネットの活用 ・研究のまとめ方の工夫	・教科横断的発想 ・教科の学習をこの時間に生かす ・教科の学習の時間にこの時間の学びを還元する ・協同的な取組と個の役割分担	・生き方を考える ・社会性とリーダーシップ ・自分に自信をつける
	2年 2～3学期	15時間	日本と世界をつなぐ(グローバルな視点・テーマを決めてディベート)	・課題発見・設定 ・課題探究 ・言語表現 ・論理的な思考 ・資料収集・取材能力	・論理性 ・視野の広がり ・教科学習の深化 ・協同的な取組	・他者理解と自己理解
27年度	3年 1～3学期	35時間	未来とつなぐ (人間力の育成)	・課題の発展 ・課題探究の技法を探る ・協同的な探究 ・発信・表現方法の工夫	・将来の目標を設定し、幅広い職業観を育成し、自分探しを進めていく	・キャリア教育を中心に、これからの自分の在り方生き方につなげる

図5：3年間の発展を示した例

### (3) 季節や行事など適切な活動時期を生かすこと

実社会と自らの行為とのつながりを自覚するとともに、実社会への参画意識が高まる発達の特徴から、年間指導計画は、生徒が実社会との接点を生み出せるような学習を行うよう配慮して作成する必要がある。

実際の生活の中にある問題や社会の問題を学習対象とし、その問題の解決に向けて探究活動を行う

ことが考えられる。その際、社会の現実を一面的に分析するだけではなく、現代社会の変化や社会背景、地球規模などの視点を生かした多面的な分析を行うこと、自分自身の生活や行為とのつながりを意識すること、これからの社会の在り方を考えることなどが重要である。また、問題解決や探究活動を通して実社会に働きかける学習を展開することも考えられる。例えば、地域で取り組む環境保全の活動に参加すること、福祉施設でのボランティア活動に取り組むこと、地域の活性化のためのイベントを自ら企画し実行することなどが期待できる。

実社会との接点を生み出すことにより、学習活動は多様に広がり、生徒の考えは深まる。同時に社会参画への意識が一層高まり、生徒自らが、社会を構成し社会に貢献していく存在であることを自覚して行動していくようになる。

### 【実社会との関連を明らかにした事例】

図6は、2年次に現地研修で被災地を訪れ、ボランティア活動を行い、3年次はその体験を地域で生かす取組の例である。1年次に1単位、2年次に2単位、3年次に1単位を行っている。

#### 《社会に生きる》

年度	単元名(時期) 単位数	学習時間	テーマ	目標	中心的な学習
25年度	生活と社会 (1年次) 1単位	17	身近な課題	多くの意見を出す 具体的な意見を概念化する わかりやすく表現する	ブレインストーミングで アイデアを広げ、それをま とめ、ポスター発表をする。
		18	身近な課題	根拠をもって主張する 論理的に表現する	ディベートで討論をする。
26年度	未来と社会 (2年次前期) 1単位	15	未来の社会	根拠を持って提案する 創造的アイデアを提案する わかりやすく表現する	プランニング対決をして、 プレゼンテーションソフト を使った発表をする。
	現地で自己発見 (2年次後期) 1単位	20	自然と災害	被災地の現状を認識する 仮説を立てる	事前研究を行い、レポート・ 口頭発表をする。
27年度	地域に生かす (3年次) 1単位	30	未来とつなぐ (人間力の 育成)	地域の未来を支える活性化策 を提案する	調査やデータ分析をし、シ ンポジウムを開いて提案す る。
		5	一年間の振 り返り	自己の成長や今後の課題をま とめる	地域活性化策を論文にまと める。

図6：ボランティア活動や地域活性化の取組のある例

### (4) 各教科・科目、特別活動との関連を図ること

総合的な学習の時間の年間指導計画の作成にあたっては、各教科・科目、特別活動との関連を図ることが大切である。その際、学習指導要領で各教科・科目、特別活動の内容を確認し、関連を図ることが可能な単元については、相乗効果が得られるように実施時期や指導方法を調整するなどの工夫が望まれる。そのために、各教科・科目、特別活動との関連を明示した年間指導計画の書式を工夫することも考えられる。

**【関連教科・科目等を重点的に示した事例】**

図7は、関連させることが考えられる各教科・科目等の内容を重点的に示した第1学年の年間指導計画である。

<b>健 康</b>		
—自らの生活や行動について考える（日常生活を豊かにするために）—		
		1 単位
月	総合的な学習の時間の主な学習活動	教科・科目等
4	<b>オリエンテーション（1時間）</b>	【国語総合】 A話すこと・聞くこと B書くこと C読むこと
5		
6		
6	① <b>生活習慣と毎日の生活（8時間）</b> ・フリップボードを利用して生活習慣についての調査を行う。 ・保健所を訪問し話を聞く。 ・市役所で、健康を支える社会制度を学ぶ。 ・健康を保持する生活習慣について整理・分析する。 ・理想の生活スタイルを新聞にして、地域に提案する。	【地理A】 (1)ウ地球的課題の地理的考察 食糧問題
7		
8		
9		
10	② <b>健康と医療（12時間）</b> ・医療の現場を知る。 ・薬の正しい服用について学ぶ。説明書を正確に理解する。（成分・効能・用法・用量・保管と取り扱い） ・高度医療技術と生命の尊厳についてディベートを行う。	【倫理】 (2)現代社会と人間としての在り方生き方
11		
12		
1	③ <b>健康と食生活（14時間）</b> ・地域の農業や生産者の現状をインタビューし分析する。 ・日本および世界の食糧問題について調査し情報を収集する。 ・食をめぐる問題についてプレゼンテーションを行う。	【数学I】 (4)データの分析
2		
3		
3		
		【化学基礎】 (1)化学と人間生活
		【生物基礎】 (2)生物の体内環境の維持
		【保健】 (1)イ健康の保持増進と疾病の予防 (2)保健・医療制度及び地域の保健・医療機関
		【家庭基礎】(2)ア食事と健康
		【社会と情報】 (4)ウ情報社会における問題の解決

図7：関連教科・科目等を重点的に示した例

**(5) 学年間の関連を見通すこと**

3年間、あるいは修了年次までを視野に入れ、学習課題や学習活動に重複や偏りがないか、また学年の進行に応じた学習の質的な高まりや段階的な積み上げがあるかなど、学年間の関連を見通しておくことは重要である。（図4・5参照）

**【単元計画等に付記する事例】**

図8は、詳細な計画としての単元計画などを作成する際に、該当の単元計画が学習活動全体ではどのような位置付けでいつ頃行われるのかを明らかにする簡易的な年間指導計画である。

学年	【 未 来 時 間 】		3 単位
1 年	出 会 い		
	新聞を使った学習 ～比較読み・投稿～ 【10 時間】	コミュニケーション ～インタビュー実践～ 【25 時間】	
2 年	共 生		
	相互理解 ～手話・点字でコミュニケーション～ 【18 時間】	ユニバーサルデザイン ～点字付き絵本づくり～ 【17 時間】	
3 年	地 球 市 民		
	ESD ～里山の機能～ 【10 時間】	テーマ別学習 ～探究・卒業論文を書く～ 【25 時間】	

図8：単元計画等に付記する事例

### (6) 弾力的な運用に耐えうる柔軟性をもつこと

実際に単元を展開していくと、生徒の興味・関心や問題意識が当初の計画と異なったり、想定していた生徒の姿と実際の姿との間に大きな隔たりが生じたりすることがある。そのような場合には、単元の途中であっても変更や改善を加えることが望まれる。ただし、修正に際しては、実現の見通しが十分あるか、生徒が意欲をもって探究できるものか、新しい学習活動に質的な高まりが得られそうかなど、当初の計画よりも質の高い探究が可能かどうかを見極める必要がある。

### (7) 外部の教育資源の活用及び異校種の連携や交流を意識すること

総合的な学習の時間を充実するためには、保護者や地域の人、研究者や専門家などの人的な資源や、公民館、図書館、博物館などの社会教育施設、企業、NPO、その他各種の団体などの組織的な資源を工夫して活用することが有益である。そのためには、日頃から外部との連携や協力を意識し、関係づくりに努めておくことが望まれる。

また、異校種との交流や連携を行う場合には、生徒に交流を行う必要感や必然性があるかどうか、交流相手にも教育的な価値がある互恵的な関係を築くことができるかどうか等の点に配慮する必要がある。

## 第3節 総合的な学習の時間と各教科・科目等との関連

総合的な学習の時間と各教科・科目等との関連を図ることは重要であり、年間指導計画においても両者の関連を意識した計画を作成することが考えられる。なぜなら、各教科・科目等で別々に身に付けた知識や技能をつながりのあるものとして組織化し直し、改めて現実の生活に関わる学習において活用することが期待されているからである。また、そのことが、確かな知識や技能の習得にもつながるとともに、総合的な学習の時間での学習活動やその成果が、各教科・科目等の学習の動機付けや実感的な理解につながるなどのよさも考えられるからである。

このように総合的な学習の時間と各教科・科目等とは、互いに補い合い、支え合う関係にあり、教育課程全体の中で相乗効果を発揮する。したがって、教師は、各教科・科目等で身に付ける知識や技能等を十分に把握し、総合的な学習の時間との関連を図った年間指導計画を作成することが大切である。

### 1. 各教科・科目等の学習を総合的な学習の時間に生かす

各教科・科目等で習得した知識や技能等を適切に活用して、総合的な学習の時間における探究活動を充実させていく関連の仕方が考えられる。生徒が自ら課題を設定し、その課題の解決に向けて情報を収集し、集めた情報を整理したり分析したりして自分の考えとしてまとめ、表現していく中において、各教科・科目等の知識や技能等を主体的に繰り返し活用していく生徒の姿が期待できる。

例えば、外国語で書かれた論文を使って情報を読み取ったり、地理歴史、公民科の資料活用の技能を生かして情報を収集したり、数学科の統計の手法でデータを整理・分析し傾向を把握したり、国語科で学習した表現手法を使って論理的なレポートを作成したり、情報科のICT活用技術を使って発表の方法を工夫することなどが考えられる。また、理科で学んだ自然環境の保全と生物の多様性に関する学習を生かして、地域の自然環境とそこに生きる人と生物の関係を考え行動に移すことなども考

えられる。

このように、各教科・科目等で学んだことを総合的な学習の時間に生かすことで、生徒の学習は一層深まりと広がりを見せることが期待できる。

## **2. 総合的な学習の時間を各教科・科目等に生かす**

総合的な学習の時間で行われた学習活動によって、各教科・科目等での学習のきっかけが生まれ意欲的に学習を始めるようになったり、各教科・科目等で学習していることの意味やよさが実感されるようになったりすることも考えられる。また、総合的な学習の時間で行った体験活動を生かして国語の時間に依頼状やお礼状を書くなど、総合的な学習の時間での体験活動が各教科等における学習の素材となることも考えられる。

例えば、総合的な学習の時間で食や健康に課題意識をもった生徒は、家庭科における食生活と栄養やライフスタイルの学習や保健体育科における現代社会と健康の学習に実践的に取り組む姿が想像できる。また、芸術科における表現の学習においては実感した問題意識を音楽や絵等で表現する等、総合的な学習の時間で学んだ成果を生かして、深まりと広がりを見せることも期待できる。

## ■年間指導計画作成の手順と留意事項

表1は、先に述べた年間指導計画作成上の留意点を踏まえ、実際に年間指導計画を作成するための手順とそれぞれの留意事項の例を示したものである。

	手 順	年間指導計画作成の留意事項
I・ 素案の 作成	I-1：学校の全体計画と関連付けて単元を配列した素案の作成	<input type="checkbox"/> 学習指導要領で総合的な学習の時間の「第一の目標」を確認する <input type="checkbox"/> 実施しようとする単元展開と自校の「目標及び内容」、「育てようとする資質や能力及び態度」との間に整合性があるか確認する <input type="checkbox"/> 実際に年間の指導計画の中に単元の予定を入れ込み、年間指導計画を作成する <input type="checkbox"/> 学科やコースの特色・学校の経営方針との関連を図る
II・ 素案の 吟味・ 修正・ 改善	II-1：生徒の意識の流れの把握	<input type="checkbox"/> 生徒の実態や特性について把握する【(1)】 <input type="checkbox"/> 生徒の意識の実態に照らして、1年間の意識の流れに無理がないか検討する
	II-2：単元配列の検討	<input type="checkbox"/> 年間を通して学ぶことが期待される内容が当該学年の生徒にふさわしいか検討する【(1)】 <input type="checkbox"/> 年間を通しての資質・能力・態度の育成が無理なく確実に進むように配列されているか確認する <input type="checkbox"/> 単元の実施が実社会と接点をもっているか検討する【(3)】
	II-3：各教科等及び学年間の関連	<input type="checkbox"/> 各教科・科目等の年間指導計画を把握し、関連について検討する【(4)】 <input type="checkbox"/> 他の学年や3年間を見通し、当該学年として学習活動の水準が適切か、質的な高まりや積み上げがあるか検討する【(5)】
	II-4：地域素材の教材化及び外部資源の活用	<input type="checkbox"/> 地域の素材をとらえ、実地に調査する <input type="checkbox"/> 地域の行事等について、日程と内容の両面から関連を検討する【(7)】 <input type="checkbox"/> 地域の外部資源が適切に活用されているか検討する【(7)】 <input type="checkbox"/> 異校種、異年齢の人との交流や連携が無理なく位置付いているか検討する【(7)】
III・ 管理と 運用	III-1：授業時数の管理と運用	<input type="checkbox"/> 探究活動を行うために必要な時数が確保されているか検討する <input type="checkbox"/> 単元の途中では、実施した授業時数を確認し、教育課程上の授業時数が確保されているか確認する <input type="checkbox"/> 単位の履修と修得の認定のために必要な授業時数が確保されているか【(2)】
	III-2：年間指導計画の弾力的運用	<input type="checkbox"/> 単元の途中では、生徒の興味・関心や問題意識が探究課題や学習課題とずれていないか確認し、「ずれ」が生じた場合には、年間指導計画に変更や修正を加える【(6)】

\*【 】の数字は、『高等学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間』の7つの配慮事項の各項目（解説56～59ページ）

表1：年間指導計画作成の手順の例